

# 満足度・生活の質に関する調査報告書2024

～我が国のWell-beingの動向～

(概要)

## <本報告書の背景・目的>

我が国の経済社会状況について、GDPだけでなく、満足度・生活の質に関する幅広い視点からWell-beingの動向を「見える化」することが重要である。こうした観点から、主観的指標である「生活満足度」（生活に満足しているかを0点～10点で自己申告するもの）や、関連する仕事や家庭の状況、生活実態の動向を把握するため「満足度・生活の質に関する調査」を2019年2月に開始した。今般、第6回調査（2024年2月実施）の調査結果を分析し、報告書を取りまとめる。

2024年8月

内閣府 政策統括官（経済社会システム担当）

# 満足度・生活の質に関する調査について

- 約10,000人へのインターネット調査（うち約5,500人は前回調査からの継続サンプルであるパネル調査）。
- 総合的な生活満足度、13分野別の満足度、回答者の基本属性や仕事、家庭の状況等により、主観・客観の両面からWell-beingを多角的に把握。

（総合的な満足度）  
**生活満足度**

## 13分野別満足度

- 家計と資産の満足度
- 雇用環境と賃金の満足度
- 住宅の満足度
- 仕事と生活(WLB)の満足度
- 健康状態の満足度
- 自身の教育水準・教育環境の満足度
- 社会とのつながりの満足度
- 政治・行政・裁判所への信頼性の満足度
- 自然環境の満足度
- 身の回りの安全の満足度
- 子育てのしやすさの満足度
- 介護のしやすさ・されやすさの満足度
- 生活の楽しさ・面白さの満足度

## 基本属性に関する質問（例）

- 性別 ○年齢 ○居住地 ○世帯構成 等

## 今回調査のトピックに関連する質問項目（例）

- <生活満足度を判断する上で重視している事項>
- 生活全体の満足度を判断する際に、重視した事項（13分野から上位3つを選択）
  - 生活する上で評価している事項（13分野から上位3つ及び下位3つを選択）

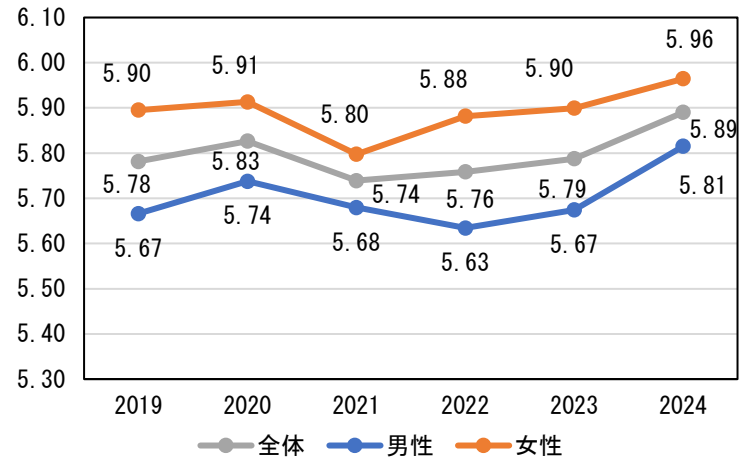
- <満足度の過去、現在、未来の動向>
- 5年前、5年後の生活全体の満足度（5年前の生活にどの程度満足していたか、5年後の生活にどの程度満足していると思うか等）

- <働き方（転職・起業）と満足度>
- 転職意向の有無・転職活動の状況について
  - 起業意向の有無・起業活動の状況について
- <生涯を通じた就業意向と満足度>
- 生涯を通じた労働への考え方について（何歳ごろまで仕事がしたいか等）

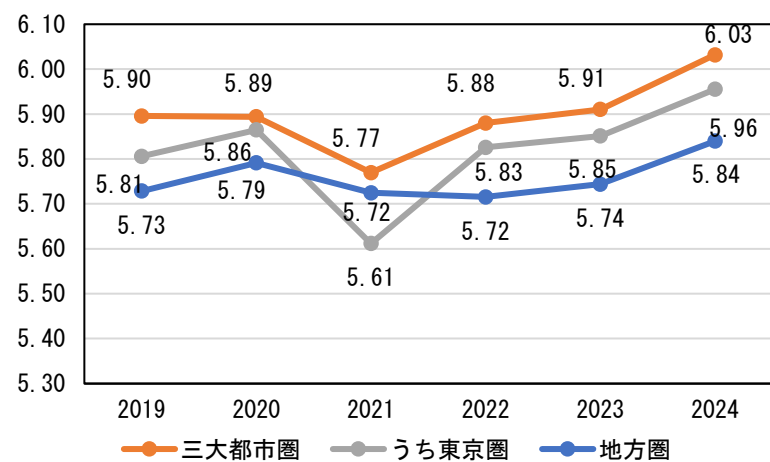
# ①-1 生活満足度の動向

- 生活満足度は、5.89と調査開始以来で最高水準となり、1年間での上昇幅も最大となった。
- 男女別では、いずれも最高水準となったが、特に男性の上昇幅が大きい(図表1-1)。年齢階層別では、全ての階層で上昇したが、40歳-64歳は2020年の水準に至っていない(図表1-2)。
- 地域別では、全ての地域で同程度の上昇(図表1-3)。雇用形態別では、コロナ禍の影響を大きく受けた非正規雇用が引き続き上昇し、正規雇用との水準差は縮小(図表1-4)。

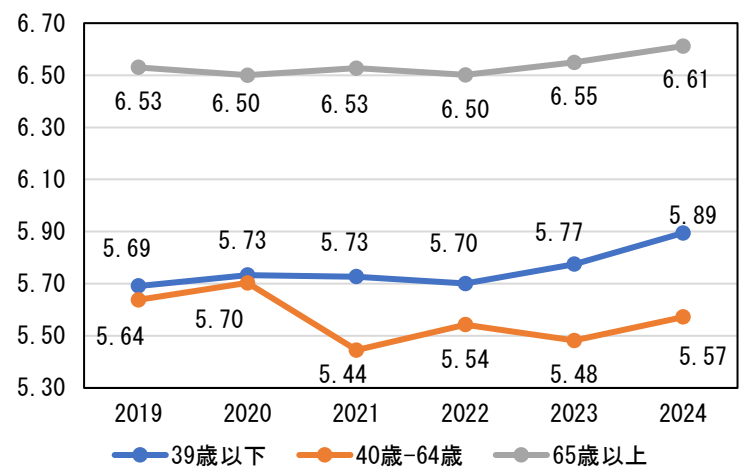
図表1-1 生活満足度の推移(男女別)



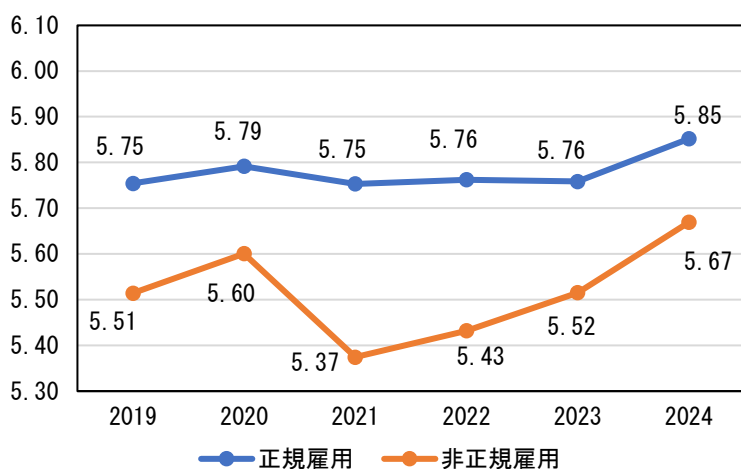
図表1-3 生活満足度の推移(地域別)



図表1-2 生活満足度の推移(年齢階層別)



図表1-4 生活満足度の推移(雇用形態別)

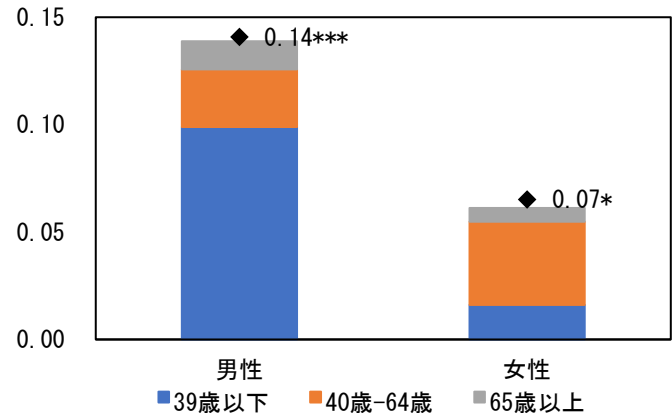


# ①-2 年齢別にみた生活満足度上昇の寄与度分解・分野別満足度の動向

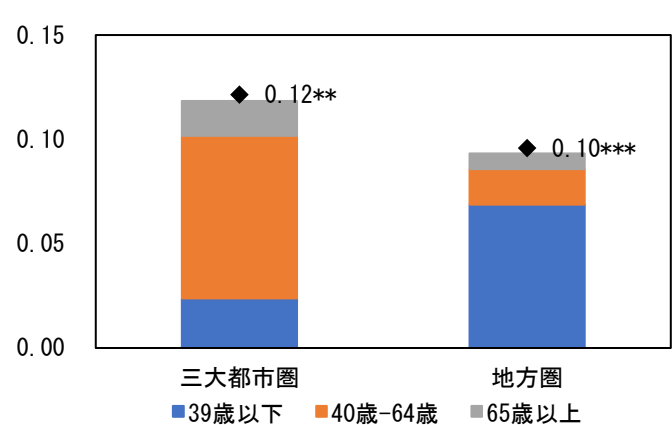
- 男性では39歳以下、女性では40歳-64歳の層が生活満足度上昇に寄与。三大都市圏では40歳-64歳、地方圏では39歳以下の層が上昇に寄与(図表2-1)。
- 男性については、39歳以下の層で多くの分野で満足度が大きく上昇。女性については、全ての年齢階層で「家計と資産」が上昇(図表2-2)。

図表2-1 生活満足度変化の寄与(年齢階層別)

(1) 男女別

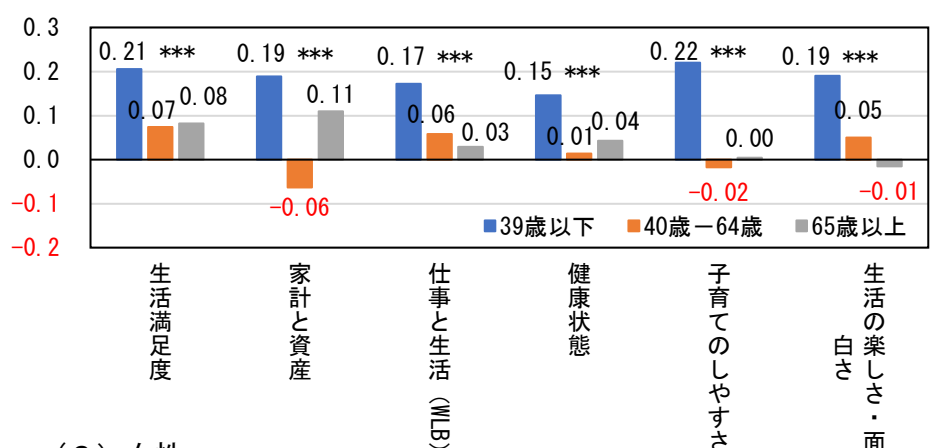


(2) 地域別

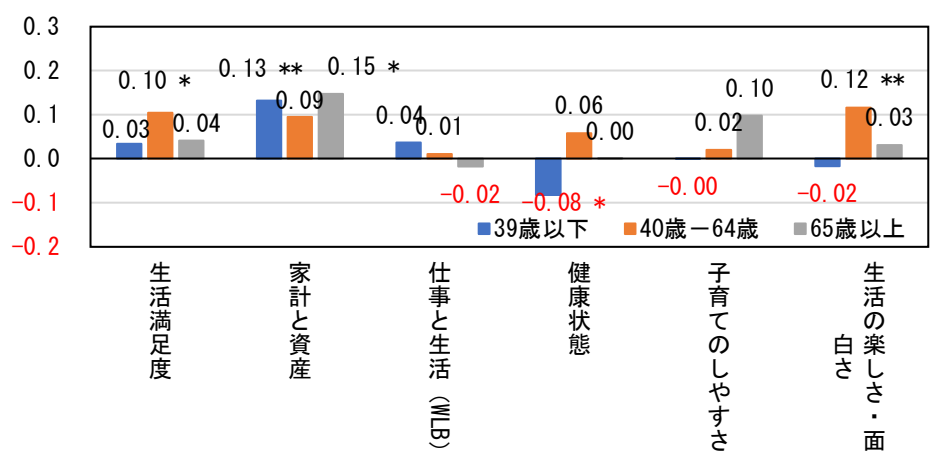


図表2-2 分野別満足度の変化(男女・年齢階層別)

(1) 男性



(2) 女性

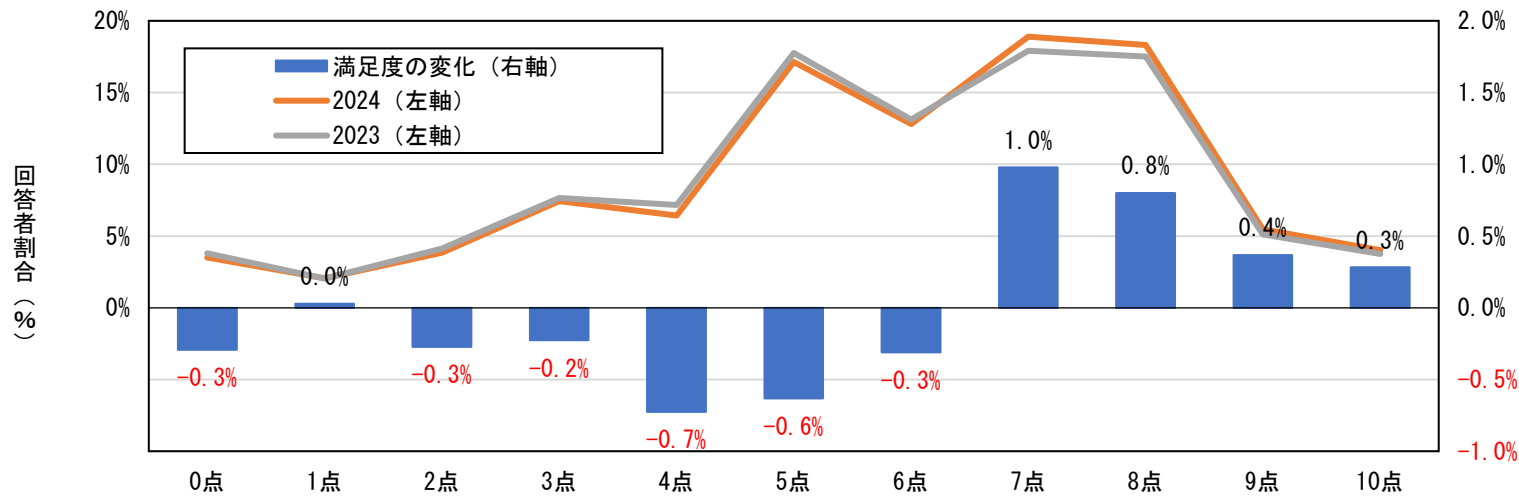


(備考) 2023年調査と2024年調査による。\*\*\*, \*\*, \*はそれぞれ1%、5%、10%水準で統計上有意であることを示す。図表2-2については、13分野のうち、生活満足度を各分野別満足度で重回帰分析した回帰係数が高い分野及び男女別にみた際に変化が異なる動きを見せている分野をピックアップしている。

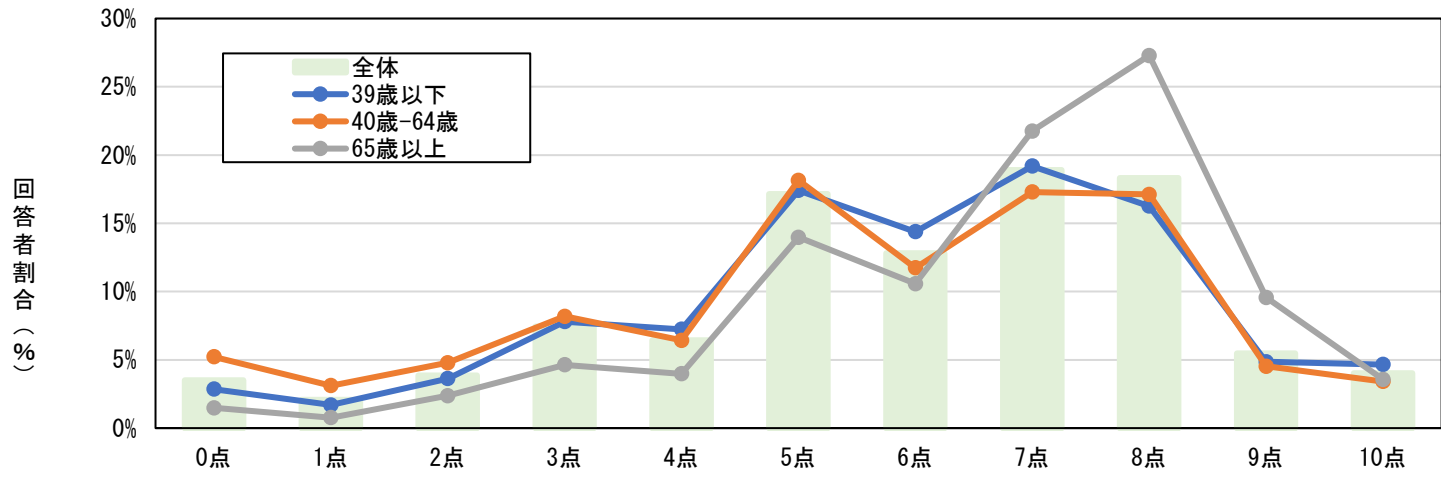
# ①-3 生活満足度の点数別分布

- 生活満足度の点数別の分布をみると7点が最頻値、次いで8点、5点が多い(図表3-1)。前回と比較して、7点以上の割合が上昇。
- 39歳以下の層は7点、40歳-64歳の層は5点、65歳以上の層は8点が最頻値となっており、年齢別にみた分布に違いが見られる(図表3-2)。

図表3-1 生活満足度の点数別の回答者割合の変化



図表3-2 生活満足度の点数別の回答者割合 (年齢階層別)

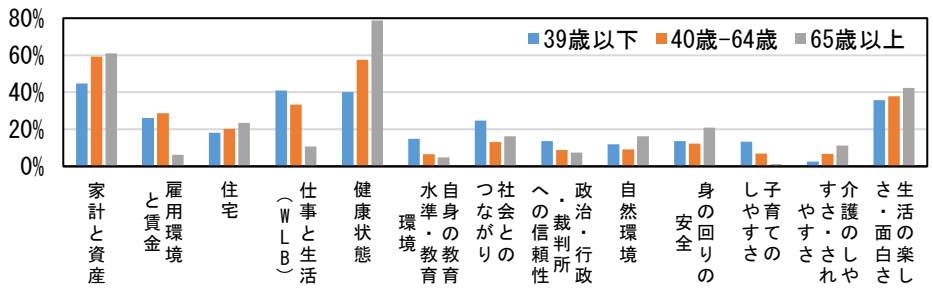


(備考) 図表3-1は、2023年調査、2024年調査の比較。図表3-2は2024年調査の年齢階層別の分布。

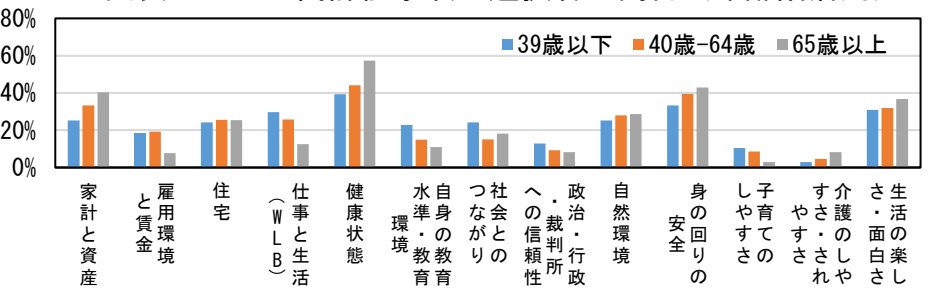
# ②-1 生活満足度を判断する上で重視している事項

- 重視している事項は年齢階層別に違いはあるものの、「家計と資産」「健康状態」「生活の楽しさ・面白さ」はいずれの年齢層でも重視されている（図表4-1）。
- 「健康状態」「生活の楽しさ・面白さ」は重視している人の割合に対して高評価している人の割合も高いが、「家計と資産」は重視している人の割合に対して低評価している人の割合が比較的高くなっている（図表4-4）。
- なお、「自然環境」や「身の回りの安全」は重視されていないが、高評価されている（図表4-4）。

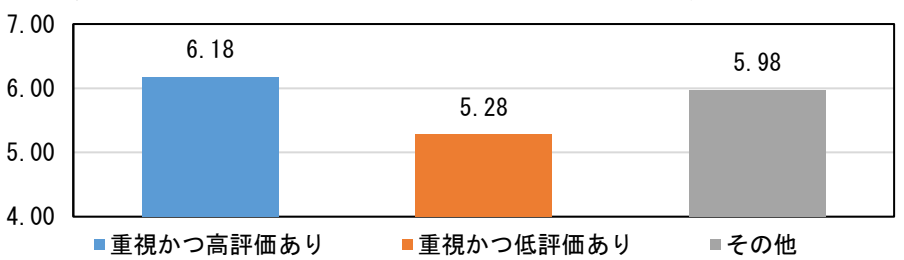
図表4-1 重視事項の選択者の割合（年齢階層別）



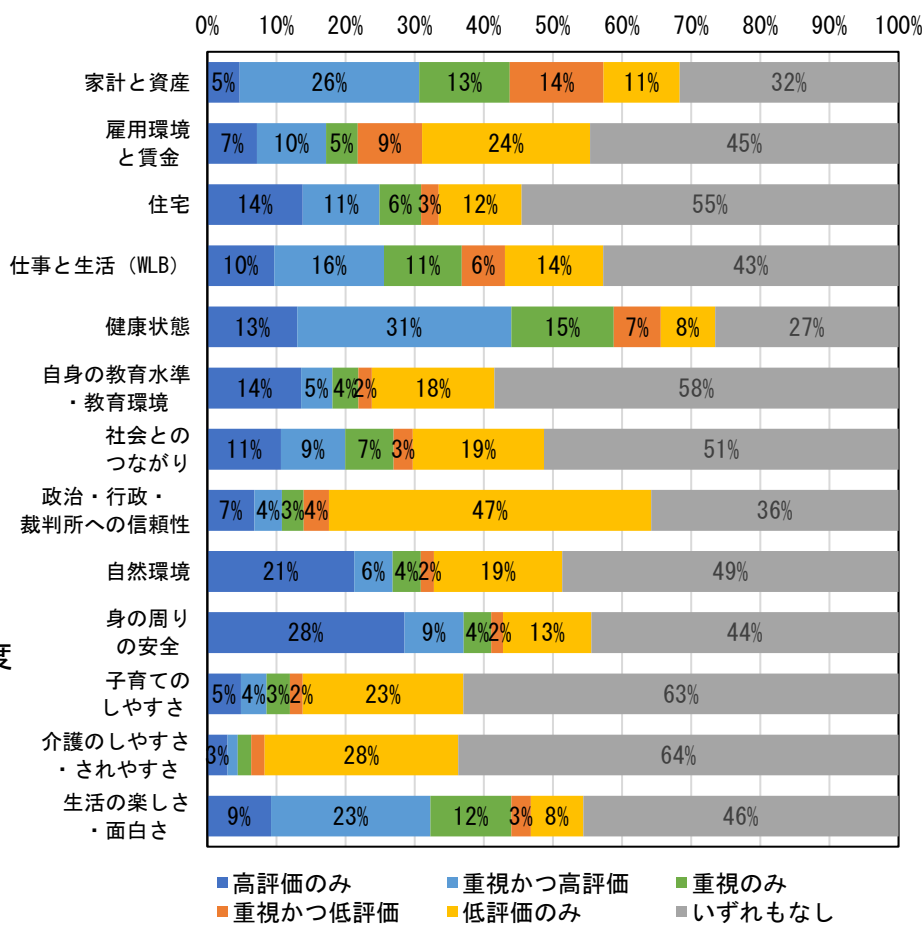
図表4-2 高評価事項の選択者の割合（年齢階層別）



図表4-3 重視事項と評価事項が一致する場合の生活満足度



図表4-4 重視事項と評価事項の関係

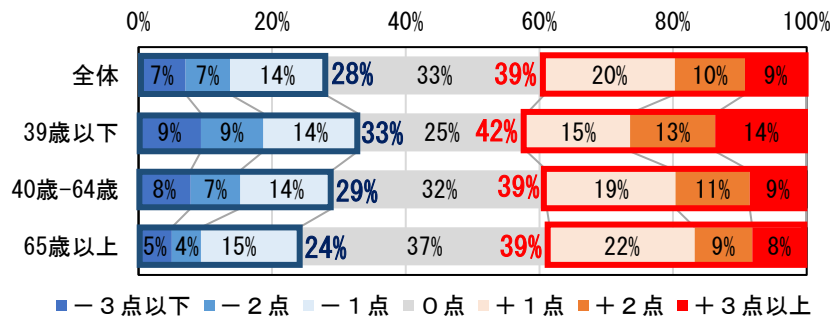


(備考)13分野のうち、生活満足度を判断する際に重視した事項の第1位から第3位を「重視事項」、生活するにあたり高く評価している事項としての上位3つを「高評価事項」、低く評価している事項としての下位3つを「低評価事項」として分析。図表4-3について、重視かつ高評価の分野と重視かつ低評価の分野の両方に該当するサンプルは、「重視かつ高評価あり」と「重視かつ低評価あり」の両方に重複計上している。

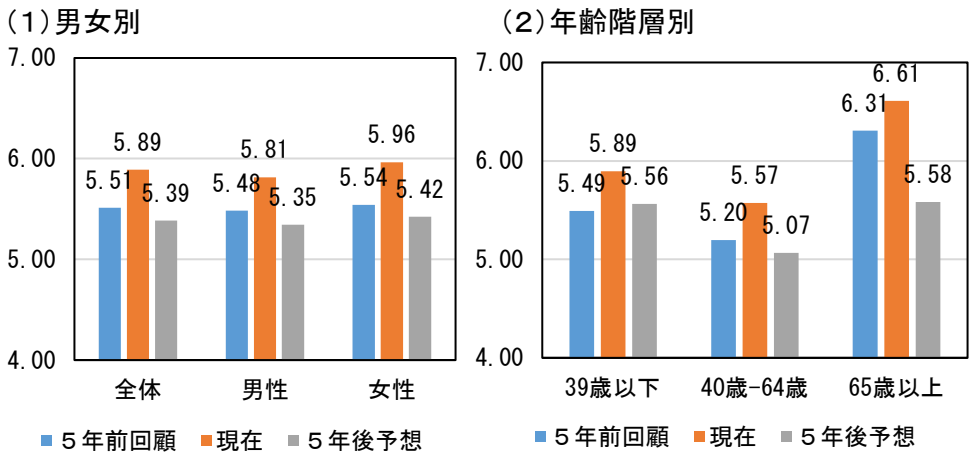
## ②-2 満足度の過去、現在、未来の動向

- 5年間の生活満足度の変化では39歳以下の層で上昇・低下双方の割合が他の年齢階層より高く、相対的に変動が大きい(図表5-1)。5年の間に結婚した人のうち5割の満足度が上昇(図表5-2)。
- 現在の満足度は5年前回顧満足度より上昇しているが、5年後予想満足度は5年前回顧満足度より低くなり控えめに評価する傾向(図表5-3)。過去5年間で満足度が上昇した人の約6割が、将来の満足度低下を予想(図表5-4)。

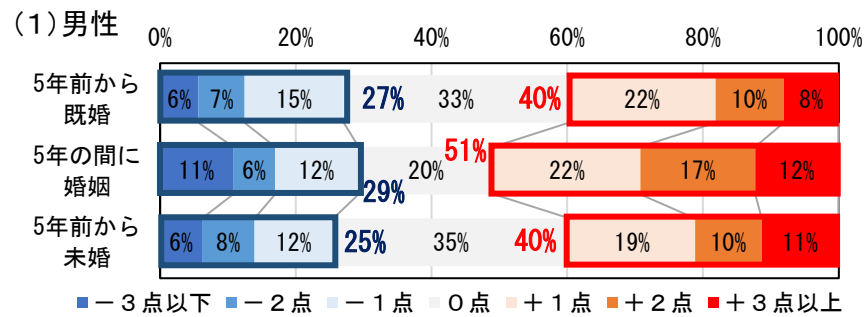
図表5-1 5年間の生活満足度の増減割合



図表5-3 5年前回顧満足度と5年後予想満足度

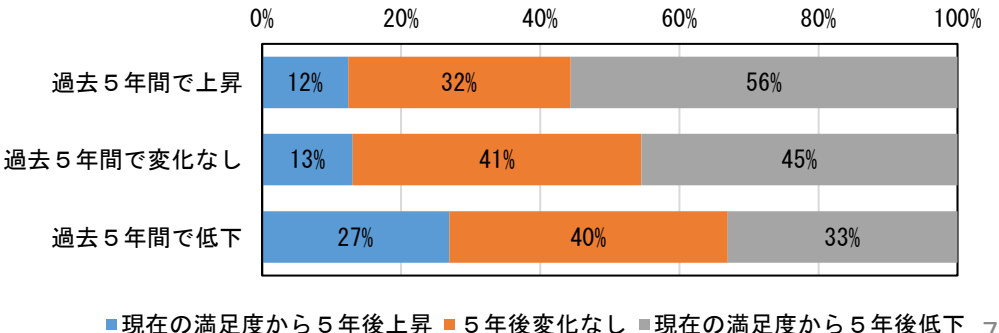


図表5-2 5年間の生活満足度の増減割合(婚姻状況別)



※ 5年前回顧満足度：現在を起点とし、5年前の生活満足度を回顧した値  
 ※ 5年後予想満足度：現在を起点とし、5年後の生活満足度を予想した値

図表5-4 過去5年間の満足度変化が5年後予想満足度に与える影響

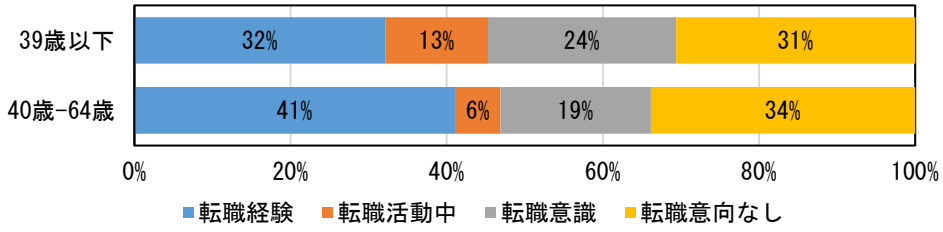


(備考) 図表5-1、5-2、5-4は、2019年調査、2024年調査ともに回答したサンプル(約2700人)。

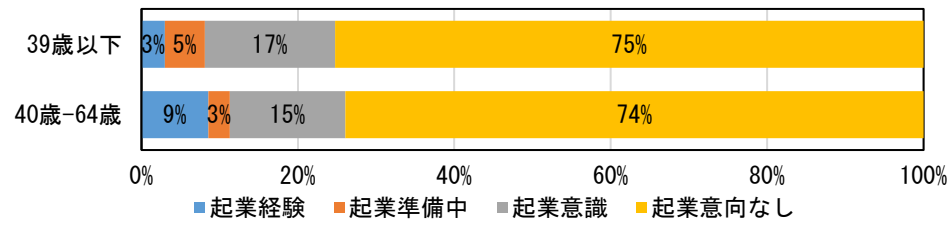
## ②-3 働き方（転職・起業）と満足度

- 転職と満足度の関係を見ると、転職意向のない人の満足度が最も高い。40歳-64歳の層では転職活動中の人の満足度が大きく落ち込む傾向（図表6-2）。
- 起業と満足度の関係を見ると、39歳以下の層と40歳-64歳の層では特徴が異なる。前者では起業経験者や準備中の人の満足度が高い傾向があるのに対し、後者では起業経験者の満足度が最も低い（図表6-4）。

図表6-1 転職の意向

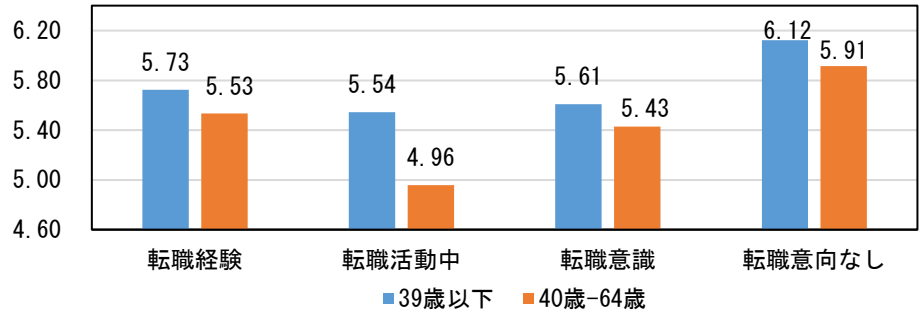


図表6-3 起業の意向

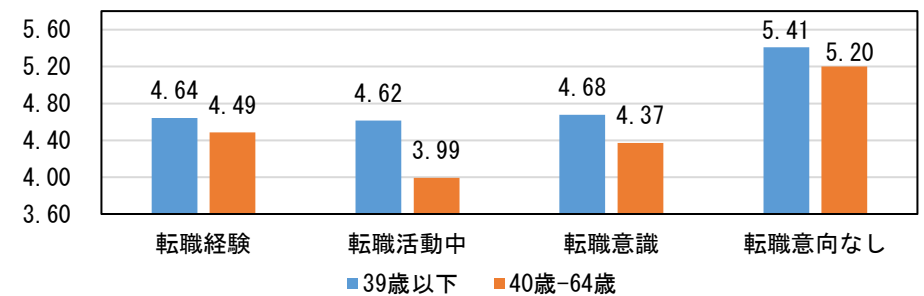


図表6-2 転職意向と満足度

(1)生活満足度

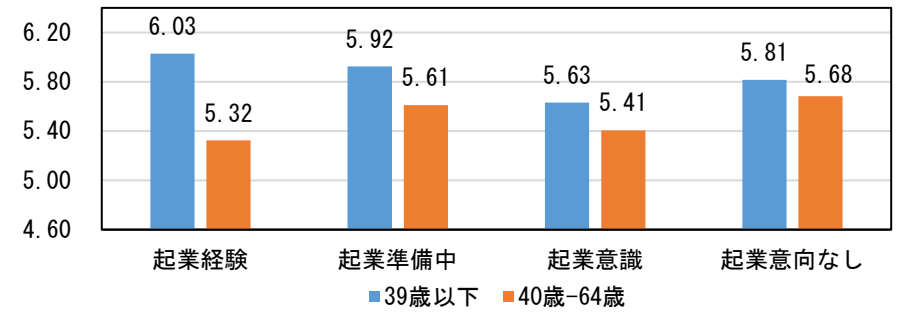


(2)「雇用環境と賃金」満足度

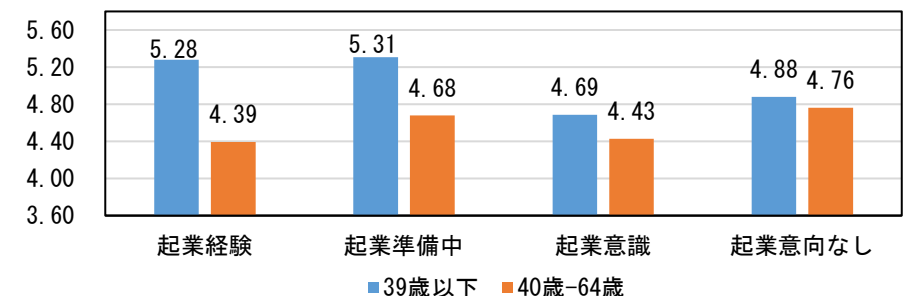


図表6-4 起業意向と満足度

(1)生活満足度



(2)「雇用環境と賃金」満足度

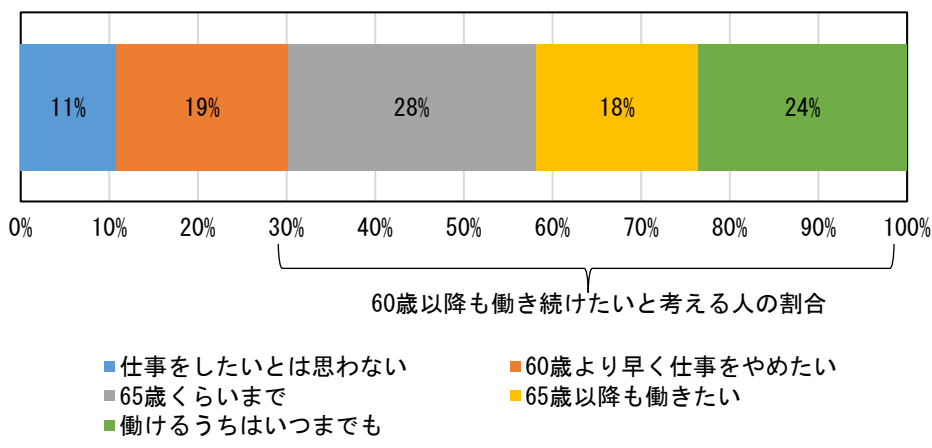




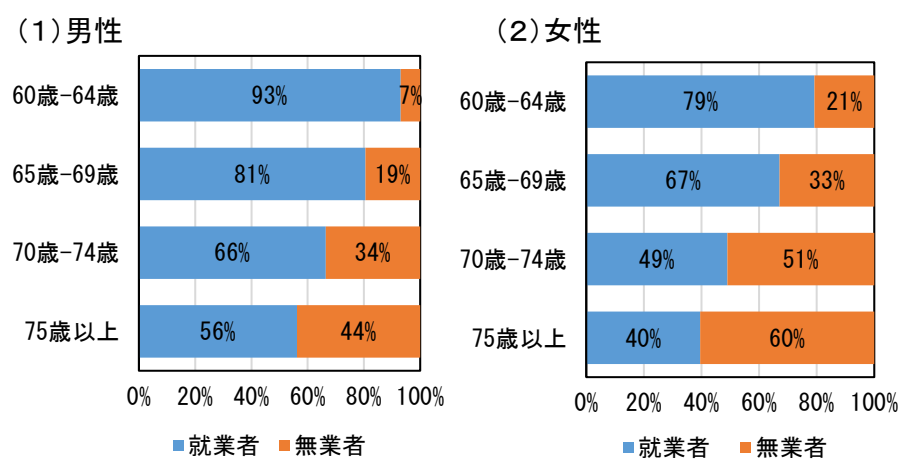
# ②-4 生涯を通じた就業意向と満足度

- 60歳未満の現役世代では、60歳以降も働き続けたいと考える人は7割(図表7-1)。
- 60歳以上では、男性の70歳-74歳、女性の65歳-69歳の約5割が就業を希望(図表7-2)。
- 就業希望者の就業状況を見ると、男性は75歳以上でも5割以上が就業しているのに対し、女性は70歳以上で就業している割合は5割を下回る(図表7-3)。就業希望の実現状況が満足度に与える影響は男性において顕著で、無業者の満足度は就業者を大きく下回る(図表7-4)。

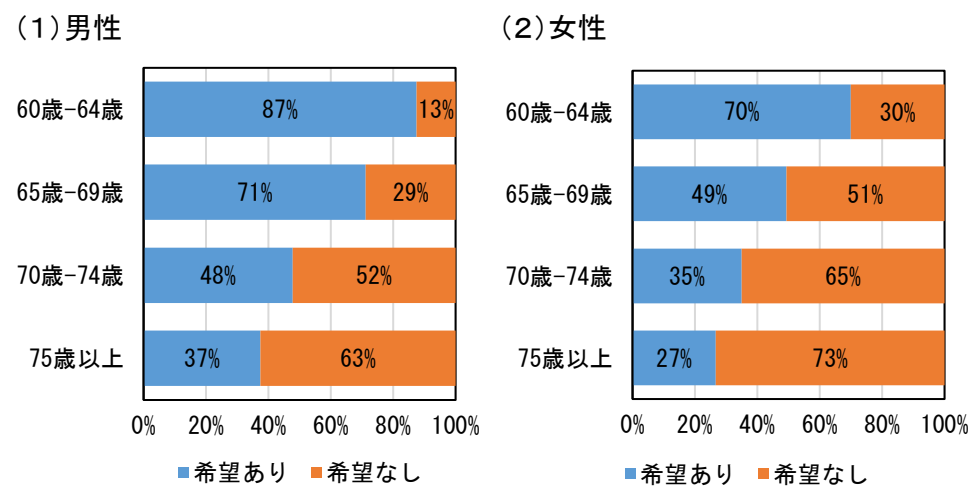
図表7-1 生涯を通じた就業意向 (60歳未満)



図表7-3 就業希望者の就業状況 (60歳以上)



図表7-2 60歳以上の就業希望割合



図表7-4 就業希望の実現状況と満足度 (60歳以上)

